

## 第11回奈良 ESD 連続セミナー

大西 浩明

◇日時：2026年2月3日（火）19時～21時

◇方法：Zoomによるオンライン形式

◇参加者：26名

◇内容：「ネイチャーポジティブについて考えよう！」 中澤静男（奈良教育大学）

### 【講義内容】

12月ごろから中小企業の経営者向けにネイチャーポジティブについて話をさせてもらっている。

SDGsの流れからも、今後非常に注目されている考え方である。

→ 経済・社会・環境のバランスが主張される

経済成長、ウェルビーイングの向上、自然環境の保全・回復

しかし、環境課題に関する目標は、12・13・14・15だけ。（社会課題の方が多い）

1992年のリオデジャネイロサミットで採択された2つの条約

・気候変動枠組条約 → 早い段階から環境省を中心に取組がなされてきた

・生物多様性条約 → ネイチャーポジティブ 生物多様性世界目標

ESG投資の加速化 物流部門も含めたSDGsバリューチェーンへの着目

### 消費者の変化

・「あなたはSDGsという言葉を聞いたことがありますか？」ある88.7% ない11.3%

10代「学校で学んだ」55.0%（全体では7.9%） 20代でも12.5%

→ 10代、20代の認知、興味・関心が非常に高い

・「SDGsに沿った商品であるか、SDGsに熱心な企業のサービスであるか購入・利用に考慮するか？」

全体の考慮層が35.4%であるのに対し、10代は52.0%

・「SDGsに沿った商品であるか、SDGsに熱心な企業のサービスは、他に比べて価格がどうなら購入・利用するか？」

価格が高くても（やや高くとも）購入・利用する割合が、10代では29%

5年後、10年後には、今の10代、20代が主たる消費者になっていく。

→ 今から企業の戦略としてどういう経営をしていくかを考える必要がある。

#### 2. 新しい潮流：ネイチャーポジティブ

1992年 地球サミット 生物多様性条約の採択

2020年 EUは2030生物多様性戦略を採択

2022年 生物多様性条約第15回締約国会議(CBD-COP15)  
昆明・モントリオール生物多様性枠組(GBF)の採択  
**生物多様性に関する世界目標**

**2030年ミッション：自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急の行動をとる**

**2050年ビジョン：自然と共生する世界の実現**

#### 日本政府の対応 2022年30by30ロードマップの公表

2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全する

→ ○サプライチェーン全体の継続的な改革  
○顧客体験価値の向上による市場創造  
○投資家とのエンゲージメントの高度化 が必要  
○学校教育においてもネイチャーポジティブに関する授業実践が始まっている

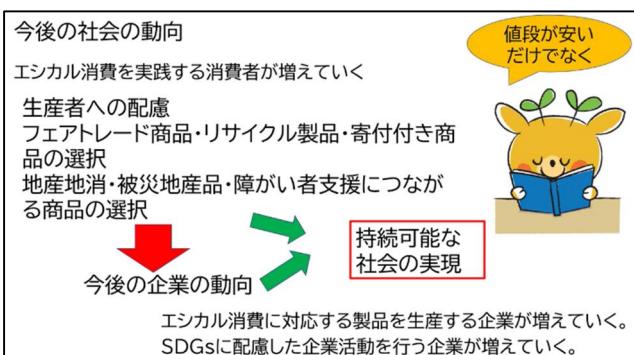
#### 奈良県環境総合計画

**3. 人・地域づくりをつうじ『未来へ紡ぐ』**  
**(3)環境に配慮した企業経営の促進(企業×環境)**  
**「ネイチャーポジティブの実現を目指します。」**

日本政府の方針が、いまだに「保全する」にとどまっているが、それではもうだめ！

「回復」させることが求められているはず。

## ネイチャーポジティブ経営…環境課題、特に生物多様性への対応



### 今行われている取組例

- ・東洋ライス（和歌山市）
  - …無洗米の製造販売、糠の有効利用
- ・明豊建設（長浜市）
  - …琵琶湖の水草の肥料化、土壌改良剤化
- ・ネイチャーポジティブ宣言都市（亀山市）
  - …市を挙げて「自然共生サイト」に協力
- ・ビーフオレスト（奈良市）
  - …ハナバチを増やす

これらの取組と子どもを出会わせることで、あこがれが生まれ、行動変容が期待できる。

### ネイチャーポジティブ経営の企業の見つけ方

- ・「出る」と「入る」に着目する
  - 原材料などは、どこから、どんなものを、どのように入手しているのか？
  - 環境により製品であるか？（生産時も廃棄時も）
- ・社員の働き方に着目する
  - 民主的運営、ジェンダー、働きがい、騒音、におい、振動、空気 など
- ・販売先に着目する
  - 近くでの販売であるほど、移送距離にかかるエネルギー消費が少ない
- ・製品、商品の移送手段
  - 鉄道や船舶が望ましい

### 【意見交流から】

- ・「そもそも季節に合わないものを栽培することはどうなのだろう？」ということをつい考えてしまう。  
「これってちょっと違うんじゃない？」と考えることが重要。  
「今の農業で、プラスチックがないとできないというのはおかしいよね。」
- 批判的思考力を高めて、価値観を変えていきたい。
- ・環境教育をしていかなければならないという背景をきちんと理解させる必要がある。
- ・先進国と途上国では、ネイチャーポジティブに対する考え方も違うと思うが・・・。  
→ 先進国が失敗したような途上国の開発であってはならない。
- ・野外活動でも、とにかく安全に終わらせることが優先されているが、ネイチャーポジティブに関わって、何をどのように学ばせるかをもっと考える必要があると思う。
- ・ネイチャーポジティブに関しても、こうやって学べる場がある者はいいが、そういう場のない人々は知らないまますぎていってしまうのでは。
- ・ネイチャーポジティブを推進する上では、学校と企業が連携することが大事だと思う。
- ・ネイチャーポジティブは教育的立場としたら理解できるが、企業はやはり利益を生み出すためにそんなことは言っていられないという部分がある。難しい現実がある。

## 【補足資料】

### 3. ネイチャーポジティブと企業経営

#### (1)先人の言葉

「経営というものは、人間が相寄って、人間の幸せのために行う活動だと言える。」  
(松下幸之助)

「事業を通じて社会貢献するという使命と適切な利益というものは、決して相反するものではない。その使命を遂行し、社会の貢献した報酬として社会から与えられるのが、適正利益だと考えられるのである」(同上)

「人間は理想とする目標をもたなければならない。金儲けは最悪の目標である。人

格を高めるような生き方を選ぶように気を付けなければならない。」(カーネギー)

「社会の役に立つ仕事をしていれば、お金はあとからついてくる。」(千本倅生)

企業経営の第1の目標は社会貢献

#### (2)企業経営にとって一番重要なこと 信頼

1回限りの契約であれば、利己的な不正行為をした者が利益を得る  
継続的な契約であれば、利己的な者は信頼を失い、排除される。  
長期的視点で考えたとき、利他的な活動をすることで、信頼と利益を得ることができる。

近江商人の「売り手よし、買い手よし、世間よし」

※利他的な企業が、投資家・消費者より選ばれる企業になる。